



乾電池式簡易型異常警報装置

「ピューマ109」

取扱説明書

PUMA



CP109

製品仕様

主要構成部品	3IC, 1TR, 1SSR, 他
吹鳴時間	5秒～60秒(可変)
低周波出力	320mW(固定)
電源	S-006P DC9V
製品寸法	130×65×50 [≒] mm (突起部含まず)
製品重量	約205g(本体のみ)

本製品は、予告なしに改良されることがあります。

茨城電子技研

〒300-0023 茨城県土浦市沖宿町726
TEL029(828)0711(代) FAX029(828)2177
<http://www.ibaden.net>
info@ibaden.net

はじめに・・・

このたびは、異常警報装置「ピューマ109」をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。この装置は、ご自宅や事務所、車庫、小規模倉庫等が不心得者に侵入される窃盗被害を低減させるために当社が開発した極めて簡易な防犯装置です。ご利用に際しましては、本書を良くご理解の上、末永くご愛用くださいますようお願いいたします。

■ 本装置の特徴

- ・ a接点、b接点それぞれの検知端子を装備し、いずれの検知でも動作します。
- ・ 検知により次々と変わる5種類のサイレン音を吹鳴して侵入者を威嚇し駆逐します。
- ・ サイレンの吹鳴時間は約5秒から1分間で調整できます。

■ 警告／注意

- ・ 防雨型ではありません。濡らさないでください。
- ・ 異常が続く場合の発報はそれぞれ一度限りです。

■ 製品の保証

通常のご使用において製品に不具合が発生した場合は、お買い上げ後6ヶ月間は無料で修理をいたします。その後は、有償修理とさせていただきます。ただし、製品の受渡しに関する運賃送料等は、保証期間中も含めてすべてお客様のご負担となりますのでご了承ください。

■ お願い

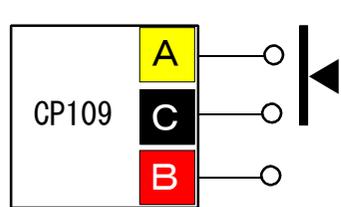
本装置は、盗難被害を少しでも低減させるために開発した機器であり、本装置を使用した上でお客様が被った被害について当社がそれらを補填する類のものではありません。

■ 本装置の使用方法

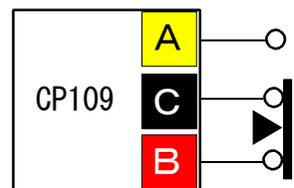
- 1 配線やスイッチの操作・乾電池の交換、点検も考慮して取り付け場所を選定し、表面4隅のビス4本を外してスピーカーの線に注意しながらパネルを開け背部の2つの穴を利用して柱や壁に取り付けてください。
- 2 裏面の説明書をご覧になり、本体側面の検知センサー接続端子にセンサー等を取り付けてください。通常、接続の極性はありません。b接点を使用しない場合は誤作動防止のため、赤いジャンパー線を外さないでください。
- 3 市販されている S006P型 9Vの乾電池をプラス・マイナスの極性に注意してセットしてください。接点側を先に潜りこませてから尻部を押し込んでください。
- 4 本体内部のサイレン時間調整VRで吹鳴時間を調整してください。右(時計)周りで長くなります。
- 5 パネルをセットして電源スイッチを入れると約2秒後に警戒動作に入ります。設置後、センサーを動作させるなどして正常動作するかの試験を実施してください。

センサー等接続方法

一般的なセンサーには、温度センサーや明るさセンサー、重量センサー、赤外線センサー、臭いセンサーなどがありますが、すべて対象の変化を電気抵抗値や電圧の変化などとして出力するものです。本装置では、下記に示すように抵抗値 $0\ \Omega \leftrightarrow \infty$ の変化(短絡と開放)の2種類に対応しております。



■ a接点(無電圧)
 常時はオープン状態で、異常時に接点が短絡(ショート)するものです。a接点、メーク接点などとも呼ばれています。常時は $10K\ \Omega$ 以上で、非常時に $3.6K\ \Omega$ 以下となるようにしてください。極性のあるセンサー等でうまく動作しない時は端子の接続を逆にしてください。接点容量は $12V5mA$ 以上ならOKです。< $0\ \Omega$ での短絡時に $1mA$ 程度流れます。>

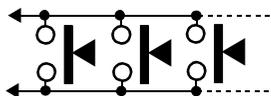


■ b接点(無電圧)
 常時はショート状態で、異常時に接点が開放(オープン)するものです。b接点、ブレーク接点などとも呼ばれています。常時は $33K\ \Omega$ 以下で非常時 $40K\ \Omega$ 以上となるようにしてください。極性のあるセンサー等でうまく動作しない時は端子の接続を逆にしてください。接点容量は $12V1mA$ 以上ならOKです。< $0\ \Omega$ で常時 $0.1mA$ 流れています。>

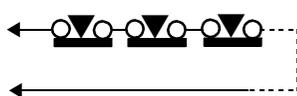
■本機は、a接点、b接点それぞれの接続端子を装備しており、その両方を同時に使用することができます。端子台の表示にしたがって接続してください。また、b接点を使用するとき以外は赤いジャンパー線を外さないでください。

複数のセンサーを接続することもできます。

◆ a接点 . . .
 下図のようにセンサーを並列に接続します。

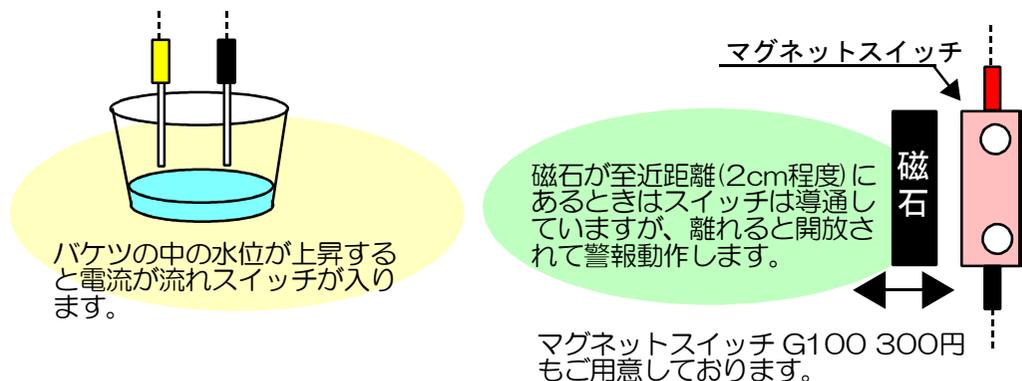


◆ b接点 . . .
 下図のようにセンサーを直列に接続します。



センサーについて

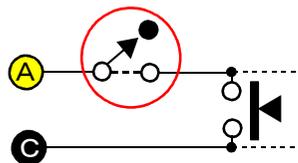
●センサーといっても難しいものではありません。例えば、a接点は照明器具の壁スイッチのようなもの。市販のドアスイッチやバケツの中に被覆を剥いた電線を垂らしておくなど。異常時に短絡(電流が流れる)させる仕掛けが使えます。また、b接点はその逆で、マグネットスイッチや電線を張り巡らせておき、異常時に断線させること等が考えられます。



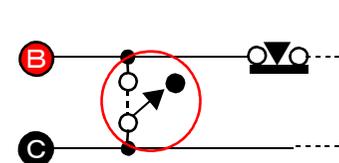
警戒解除スイッチ接続方法

管理者が入室する時などのために警戒解除スイッチを取り付けることをお勧めします。

● a接点の場合<解除時>



● b接点の場合<警戒時>



誤結線は故障の原因となります。ご不明の点がございましたら、メールやファクスにてお気軽にご相談ください。